

令和2年度学校自己評価システムシート（県立秩父特別支援学校）

目指す学校像	健康で心豊かな人間の育成と社会的自立をめざし、児童生徒一人一人の障がい特性や教育的ニーズに応じた教育を推進するとともに、地域に貢献する特別支援教育のセンター的機能を果たす。
--------	--

重点目標	<p>1 児童生徒一人一人の障がいの状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。</p> <p>2 保護者・地域の学校等関係機関との連携を密にし、交流及び共同学習、支援籍学習、現場実習、研修会、巡回相談の内容を充実させて、地域の特別支援教育に貢献する。</p> <p>3 児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。</p>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	12名

学 校 自 己 評 価					令和2年度評価（1月31日現在）		
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	○新学習指導要領を踏まえ、下校時刻や週授業時数等を見直し新たな教育課程を編成した。今年度はその成果と課題について精査する。また、新学習指導要領の実施に伴い、教育目標全般の見直しを行う必要がある。	①新学習指導要領を踏まえた新たな教育課程の成果と課題の精査、並びに教育目標全般の見直し	①-1 教育課程検討委員会と各学部が連携し、新たな教育課程の実践と成果、課題について12月を目的に精査し、成果を更に深く、課題を全校で共有、改善し、次年度の編成に繋げる。 ①-2 教育課程検討委員会が中心となり、教育目標全般について、新学習指導要領を踏まえ、分かりやすさを重視して見直しを行う。また、併せて目標を視覚化した新たなランドデザインの作成も行う。	①-1 新たな教育課程により各教科の学びの連続性が担保されるなど内容面の充実が見られたか等、成果と課題について精査し、改善に繋がれたか。（12月を目的） ①-2 教育目標全般について、新学習指導要領を踏まえ、分かりやすさを重視して見直しを行えたか。また、新たな教育目標を含め本校の教育活動全般を視覚化したランドデザインを作成できたか。	新たな教育課程の成果と課題の検証、新ランドデザイン（試案）を作成した。 ①-1 各学部で教育課程の成果を確認、各教科等の指導内容も検証し、次年度に繋げた。 ①-2 教育課程検討委員会を中心に、教育目標を改善、新ランドデザイン（試案）を作成した。	A	・各学部において新学習指導要領を踏まえて実施した教育課程の成果と課題を整理しながら、次年度の教育課程編成に繋げる。その編成の過程には、社会に開かれた教育課程を目指し、カリキュラムマネジメントの実現を図ることも視野に入れ検討する。 ・新たに作成した学校教育目標や目指す学校像を達成するための具体的方策を具現化しながら新ランドデザイン（試案）に基づいた教育活動を展開する中で、成果と課題を検証し、完成版の学校ランドデザインを作成する。
	○各学部と自立活動部の連携（秩父スタイル）が定着した。全担任による「自立活動の指導計画」の作成や、自立活動以外の指導案にも各児童生徒の自立活動の内容を記載して研究授業等を実施する等の取り組みにより授業改善を実現できた。今後は教員個々の実践の成果を学校全体でプールし、学校全体の教育力を高めていく必要がある。また、児童生徒の将来像を見据え、連続性のある目標設定と支援の工夫を行うことで更に充実した教育内容を実現する。	②学校全体の教育力の向上	②-1 各学部と自立活動部の連携を保ち、本校の指導体制「秩父スタイル」を実施（縦の学部間連携と横の各学部と自立活動部との連携）、強化していく。手立てとして、日々の実践において「自立活動の指導計画」を更に活用し、事例研究会、研修会等を通じ成功事例を共有することで、学校全体の教育力を高める。 ②-2 児童生徒一人一人の将来像を見据えたトップダウン型の思考により現在の目標を設定し、児童生徒の主体性を引き出しながら、自立と社会参加を見据えた授業改善に取り組む。初任者を中心とした教員の他学部授業体験や、進路指導主事・副主事の授業参加等を通じ、多角的な視点をもって学びの連続性を担保する。	②-1 既存の研修会の活用に加え、学部研修会に事例研究を取り入れ、成功事例を共有する機会を増やす。また、教務研修部が中心となりサーバー上に教材データの保存場所を作成し、個々の教員が活用しやすい環境を作る。 ②-2 研修会の活用に加え、初任者を中心とした教員の他学部授業体験や、進路指導主事・副主事の授業参加等を通じ、多角的な視点をもって学びの連続性を担保する。	・校内での研修会の充実、ICTを活用した授業など、学校全体の教育力が高まった。 2-①各学部が全学部と呼びかけ事例研修会を積極的に実施、既存や新規の教材データをサーバー上に保存、活用するなど、個々のスキルアップと全体の教育力が向上した。 ②-2 初任者や進路主事等による他学部授業体験を通して、児童生徒の現在つけさせる力を把握するなど、進路実現に向けて、指導力の向上に繋がった。	B	・次年度もコロナ禍での教育活動を想定し、ICT機器を活用した授業の充実、(指導事例の蓄積)リモートを想定した学習内容(家庭でできる学習課題「音楽や体育等も含む」)を提供できる体制整備を推進するなどGIGAスクール構想を意識した全体の教育力を高める。 ・学部横断的な授業観察を通して、個々の実態の更なる把握、卒業後を意識した指導内容を検討できる
2	○秩父地域唯一の特別支援学校として、特別支援教育のセンター的機能を発揮してきた。昨年度までの実績を踏まえ、連続性のある「多様な学びの場」を一層充実させるとともに、特別支援教育の推進拠点として、将来にわたる充実した支援の実現に向け、地域連携と地域への積極的な働きかけを更に強化していく必要がある。	①多様な学びの場の充実	①-1 引き続き各交流会等を充実させ、多様な学びの場を実現する。また、交流学習、支援籍学習に留まらず、作品交換、手紙のやりとり等を含め、学校間、学級間等のつながりをさらに深められたか。 ①-2 新たに進路指導副主事を設置し進路指導体制を強化する。実習先の確保により多様な学びの場を実現し、進路先として活用できるようにする。特に医療的ケアの必要な生徒の現場実習先等の確保に向け、各関係機関と連携する。	①-1 交流会、支援先学習等に加え、作品交換等のやりとりなどを通じ、心理的なつながりを更に深められたか。また、各交流会等において、目標を具現化させた取り組みがなされたか。 ①-2 医療的ケアの必要な児童生徒の将来にわたる生活の場の情報収集、情報共有が図られ、生徒の実態及び保護者の希望に近づく実習先の確保並びに進路実現が図れたか。	・創意工夫した交流及び共同学習の機会の推進、実習先の新たな開拓など、地域連携が一層進んだ。 ①-1 支援籍学習(56回)、交流学習(6回)間接的な交流学習(1回)を実施、保護者のみ引率の支援籍学習も交流校の理解が進み2校実施できた。 ①-2 進路副主事設置による指導体制の見直しの結果、特に肢体部の進路実現に向けて、地域への理解・啓発活動が進み、本校に対する理解が一層進んだ。	A	・コロナ禍での交流及び交流学習も想定し、本来の学習活動の充実はもちろんであるが、学習形態については、今まで以上に、創意工夫した活動(リモートでの支援籍学習や交流学習、間接的な交流学習等)を設定し、多様な学びの場の実現とともに、コロナ禍での学習機会の確保を一層図る。支援籍学習での引率も、相手校の理解も深まっているため、継続した取り組みの場合には保護者が引率しての学習活動の充実を図る。
		②センター的機能の一層の充実	②-1 校内(各学部主事が要望を集約して要請)並びに地域の教育的ニーズに応じ、丁寧な情報収集、具体的に活用しやすい助言、指導支援を行う。 ②-2 地域の高等学校と連携・協力し、センター的機能をより一層充実させる。	②-1 校内並びに地域の教育的ニーズに応じた指導支援の取り組みが具体的に図れたか。 ②-2 地域の高等学校の要請に応じ、授業改善、相談など、効果的な支援を実現できたか。	・校内・校外の児童生徒の教育的ニーズに応じた指導支援が充実された。 2-①校内ケース・支援会議等12回実施、個に応じた支援の充実が図れた。 2-②高校2校の支援を実施、教育的ニーズに応じた授業改善に繋がった。	A	・障害特性や個々の実態に応じた支援をより充実するため、各専門家による巡回支援(昨年比20時間増)を定期的実施し、教員の指導支援に活用する。及び、保護者支援に繋げる。 ・高校からの要請に応じ、具体的な支援内容を明確化しながら、指導支援の充実を図る。
3	○医療的ケア実施要項に新たに明記された内容は、保護者の負担軽減に繋がりが有益だった。一方、児童生徒の更なる安心・安全な教育環境の実現に向け、災害対応等について強化していく必要がある。また、児童生徒自らが生涯にわたって豊かな生活が送れるような指導支援を更に充実させることが課題である。	①安全・安心で健康的な教育活動の充実	①-1 感染症予防の観点から、手洗いや換気等の習慣づけなど新たな視点に加え、児童生徒の発達段階を考慮した学校保健計画をもとに、月間目標に基づいた具体的な学習内容を指導することで、保健教育を充実させる。 ①-2 生徒指導部を中心として引き渡し訓練を新設し、保護者を含めた災害対応訓練を実施する。	①-1 感染症予防など社会の要請に応じ、且つ児童生徒の発達段階に考慮した保健指導に関する学習内容を、具体的に指導できたか。 ①-2 保護者と連携し、引き渡し訓練を実施できたか。	・児童生徒の健康を第一に、安心で安全な学校生活に向けた環境作りに取り組んだ。 ①-1 「秩特5つの安全宣言」や月毎の保健指導内容を具体化するなど、感染症防止や保健指導の充実を図った。 ①-2 初めて引き渡し訓練を実施、成果と課題の検証を進めた。	A	・次年度も、児童生徒の健康を第一に考え、「秩特5つの安全宣言」を基本にした感染症対策を徹底する。また、引き渡し訓練の成果と課題を検証しながら、本校の災害時防災マニュアルも含めた、防災教育全般の見直しを図る。
		②生涯にわたる生活の充実	②-1 新設した接遇講師の活用を含め、生徒の将来の社会生活(職業生活・家庭生活・余暇生活・地域生活)を豊かにするための教育内容の改善に取り組む。また希望者に週3回の部活動を継続して実施する。 ②-2 保護者からの卒業後にも利用したいとの希望がある旨を放課後等デイサービス事業者等へ伝えるなど、生徒の卒業後の生活の充実に向け、地域の関係機関に引き続き情報提供を行い、研修会内、相談事業等も実施していく。	②-1 接遇講師の活用等を含め、生徒の将来の社会生活を豊かにするための授業等の改善や部活動の充実が実現できたか。またそれにより、児童生徒に生涯にわたる生活の基盤ができたか。 ②-2 放課後等デイサービス事業者へ保護者のニーズを伝え、且つ指導・支援に関する情報提供、相談事業の実施により連携し連携を強化し、将来のサービス実現に向けた礎を築けたか。	・キャリア教育の更なる充実に向けた授業改善、余暇生活の向上を図った。 ②-1 接遇講師によるマナー学習を10時間実施、部活動では教員チームとの交流戦を行うなど、生涯にわたる生活基盤を醸成した。 ②-2 医ケア児童生徒の居場所作りのため、保護者アンケートを実施、秩父地域自立支援協議会との連携、施設見学など、保護者のニーズに応じた協議の場が作れた。	B	・キャリア教育の一環として実施した特別非常勤講師の招聘(接遇講師によるマナー学習)を継続する。また、医ケア児童生徒の居場所作りを、各行政機関や事業所と連携しながら進め、将来の社会生活の充実に向け、児童生徒の実態や保護者ニーズに応じた生活基盤作りを進めていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・コロナ禍で、給食は会話ができず「さみしい」とのことだったが、元気ある学校作りのため、生徒会を中心に活動していることはすばらしい。その一つとして「昼の放送」を始めたことについて「すばらしい」と好評価をいただいた。(委員の2名が放送を聴いて帰校された)</p> <p>・駐車場に車を止めて、歩いて学校に向かっていると、生徒さんが「こんにちは」と声をかけてくださり、気持ちよかった。走っていて苦しい中でも挨拶をしてくれ、日頃の先生方の指導が行き届いていると感じた。</p> <p>・コロナ禍によって失われたものがたくさんあると思うが、先生が言われたように、得たものも多くあると思う。リモートを活用することで、音楽や体を動かすことなど、施設でも取り組んでいるところもある。話を聞いて事業所の見学を含む説明会も、今後オンラインで行えるようにするなど、工夫していくことも求められると感じた。</p>	
<p>・今般の状況で、小学校(秩父第一小)との交流は各学年1回しかできなかったが、生徒会会長の発言で、Zoomでの交流もできたかなと感じた。この取り組みは第一小学校の伝統であり、ぜひ続けたい。秩父市ではWi-Fiについて急ピッチで工事が進んでいる。ぜひ、活用しながら一緒に進めていきたい。</p> <p>・リモートで交流できることは、とても良い取り組みと感じた。「自分の子どもの存在を地域に知らせたい」とし、保護者としても「アピールしたい」と思い、地元の小学校に通学させた。以前に交流をやっていた地元中学校が閉校になり少し残念である。このような意義からも、今後も継続して交流活動をお願いしたい。</p> <p>・貴校でロードサポート事業について、第1回目の評議員会・評価懇話会で学ばせていただき、事業所でも取り組んだ。ユニホームを支給され、清掃活動をする利用者もやりがいが増す。地域貢献事業の一つでもあるので、ぜひ継続してこの取り組みをお願いしたい。</p>	
<p>・医療的ケア児の放課後の居場所、卒業後の活動場所について、実態を把握し、保護者ニーズの情報を提供していただいた。今後も学校と連携・協力しながら、良い方向に進めていきたい。</p> <p>・事業所の施設長として、医ケア児の居場所について、少しでも貢献したい。今後秩父地域自立支援協議会の中でも継続して協議、さらに各市町において策定している障害者福祉計画の見直しにおいても重点項目の一つとして上がっている。その中で、どこまでできるかというのは、我々福祉サービスも、学校や行政機関等とともに連携を深め、事業所が前向きに一步踏み出せばいいと思う。</p>	